

## 2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

■2019年度報告書における意見・課題は新規課題か継続課題かを振り分け、担当している部門を明記した。新規の担当は、継続課題との関連と意見・課題の内容と部署の関連性から振り分けた。  
 ■新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

※1:平成30年度意見・課題への取り組み(年度末点検)をもとに、2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みの進め方を記述し、第1回学校関係者評価委員会に報告した。  
 ※2:中間点検は第2回学校関係者評価委員会に報告した。  
 ※3:年度末点検は第3回学校関係者評価委員会に報告した。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方	■中間点検	■年度末点検
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○第一の基本方針である、TPC*の育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取組が工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げています。 ○教科指導におけるアクティブラーニングの手法の導入は、年々着実に前進が見られるが、入学時オリエンテーションやマナー指導・実習・学校行事などの機会を活用した授業外の指導にさらなる工夫が求められていることから、教務委員会や学生委員会を中心とした取り組みに引き続き期待したい。  *TPC…Think(考える力)、Positive(積極性)、Communication(対話力)。本校では「社会人としての総合力」がこの3つの要素から成ると捉えている。	継続	校長	■授業外でのTPCの指導については、引き続き教務委員会や学生委員会を中心に具体的な取り組みを推進する。今年度は、学校行事の多くがやむを得ず中止となる見込みだが、双方オンラインのツールを用いて、新たにアクティブラーニング的な手法を導入した指導も試みる。	■今年度前期は、集合対面型の学校行事のほとんどについて中止を余儀なくされたが、オンライン・ツールの特性を活かしたTPCの育成・強化という新たな教育の課題に向け、有効な第一歩を踏み出すことができた。	■後期は対面授業と並行して、一部の科目は引き続きオンラインで実施した。オンラインを併用したハイブリッド型の教育によるTPCの育成・強化については、授業外のケースも含め、進むべき今後の方向が見えてきた。
			継続	教務委員会	■オンライン授業の導入に伴い、ネットを介した教員・学生間のコミュニケーションツールやフィードバックツール等の下地が整いつつある。対面型授業の実施においても学生の主体性を促せるよう、有用性のある学習ツールを模索し、提案していく。また、授業公開等の機会を利用しアクティブラーニング型授業の手法に取り組んでいる授業の参観を推奨し、導入の推進を図る。	■6月以降対面授業を開始したが、ネットを介したツールは継続して使用している。有用性のある学習ツールは模索中である。授業公開は後期での実施に向けて準備中である。	■次年度に向けて「オンライン授業の手引き」を更新する。その際にも有用性のある学習ツールとして「Googleクラスルーム」を盛り込む。 ■授業公開は現行のしきりが教員間において定着してきたこと、参観者によって教室内に密になる可能性があることから、今年度は後期授業期間を授業公開期間として実施した。これにより参観者の分散を図ることができた。またオンライン授業も公開授業として実施した。
			継続	学生委員会	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任からオリエンテーションの際に指導してもらった。 ■学園祭では、学生に役割と可能な部分の裁量権を与え、主体的に動き、創意工夫ができるようにする。 ■これまでは教職員が中心として行ってきた、朝のあいさつ当番の運営方法と、あいさつ当番の委員の学生に検討させ、実施する。	■新型コロナウイルス感染症対策で、オリエンテーションはオンラインでの実施になり、十分な指導はできなかった。 ■新型コロナウイルス感染症対策で、今年度の学園祭は中止になったため、実施できなかった。 ■クラスの「環境委員」を今年度から「生活・環境委員」という名称にあらため、実施する準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症対策で、あいさつ当番は中止になった。あいさつ当番は10月に学生から募集・抽選を行い、11月からは抽選で選ばれた構成員が玄関に設置しているモータに表示されるようにする予定である。	■新型コロナウイルス感染症対策で、オリエンテーションはオンラインでの実施になり、十分な指導はできなかった。 ■新型コロナウイルス感染症対策で、今年度の学園祭は中止になったため、実施できなかった。 ■クラスの「環境委員」を今年度から「生活・環境委員」という名称にあらため、実施する準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症対策で、あいさつ当番は中止になった。あいさつ当番は10月に学生から募集・抽選を行い、11月からは抽選で選ばれた構成員が玄関に設置しているモータに表示した。
1 教育理念・目的・育人人材	1. 理念・目的・育人人材 (1)理念・目的・育人人材は定められているか	○専門学校は入口と出口が大切である。入口では入試のフォローや留學生についての準備・教育については研修や授業公開で努力している。出口についても2-40、卒業生フォローを充実していくとしている。入口、出口、教育の3つのステージについてバランスよく考え、実践されている。引き続き、質を高めていくことに期待している。  ○各学科における3つのポリシーの再確認をしっかりと行い、引き続きそれぞれの教育を進めて欲しい。	継続	校長	■専門課程居間部の各学科の教育を中心に、入学者の受入・教育課程の編成・卒業認定について、教育を取り巻く環境の変化との整合を引き続き図り、時代に合った質の高い職業人教育を提供する。	■次年度に向けて専門課程居間部の学科の改革を行い、特に医療事務分野の学科については3年制・2年制・1年制と学科の再編を実施し、「より学びやすさ」という観点から、2年進級時に学科間の移動も可能とした。	■キャリアコンパイラ養成科と鍼灸医療科の教育を、今年度末で終了した。医療事務分野の次年度に向けた学科再編は、再進学者を主な対象とする1年制学科の学生募集について、課題が残った。
			継続	校長	■学科運営計画や学生募集要項等に示されるように、3つのポリシーの確立は学科ごとにほぼなされており、それらに基づいた具体的な計画を引き続き推進する。	■各学科の本年度運営計画において再確認され、それらに基づいた教育活動が進められている。	■新型コロナウイルス感染症の中で、計画どおり進められなかったケースもあるが、学科運営計画に基づいた教育活動を、概ね押し進めることはできた。
			継続	キャリアコンパイラ養成科	■今年度当初に3つのポリシーを再確認した上で学科運営計画に基づいて教育を進める。	■3つのポリシーに基づき教育を推進している。	■2020年度末で閉科のため、アドミッション・ポリシーを除く2つのポリシー(カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)に基づく教育活動を推進した。
			継続	医療秘書科	■3つのポリシーを学科教員が共通理解した上で、学科運営計画に基づいた教育活動を推進する。	■3つのポリシーは、学科教員間で日頃より共通理解をはかり、新型コロナウイルス感染症禍における非常事態においても学科の判断基準として機能している。	■3つのポリシーを意図した学科運営計画を実施している。オープンキャンパスにおいては学科のポリシーを説明し、ロールモデルとなる学生スタッフの教育に努めている(アドミッション・ポリシー)。学科教員は連携を取り、学生の充実した学校生活のため努力している。専門性と社会性を、偏らずバランスよく有する人材育成を行っている(ディプロマ・ポリシー)。
			継続	医療マネジメント科	■学科教員全員で3つのポリシーを共通理解し、それを具現化した学科運営計画に沿って実践する。	■学科会議や目標面接等の機会を通して、3つのポリシーの共通理解を図り、学科運営計画については適宜説明を行って実践を促している。学科教員は、各自3つのポリシーと学科運営計画に則った個人の目標設定を行い、実現に向けて始動している。	■3つのポリシーを具現化した学科運営計画により実践できない計画もある中、学科教員は常に情報共有しながら最善を探りつつ連携して取り組んでいる。
			継続	診療情報管理専攻科	■学科教員全員で3つのポリシーを共通理解し、それを具現化した学科運営計画に沿って実践する。	■学科会議や目標面接等の機会を通して、3つのポリシーの共通理解を図り、学科運営計画については適宜説明を行って実践を促している。学科教員は、各自3つのポリシーと学科運営計画に則った個人の目標設定を行い、実現に向けて始動している。	■3つのポリシーを具現化した学科運営計画により実践している。新型コロナウイルス感染症により実践できない計画もある中、学科教員は常に情報共有しながら最善を探りつつ連携して取り組んでいる。
			継続	くすり・調剤事務科	■双方向の授業方式の導入により、積極的な参加の習慣化、物の見方や意見の違いを理解し考える力を身につける、課題解決のための提案力・対話力を身につけることで、3つのポリシーを達成していく。	■対面授業が再開されても、教室内の3密を避けるため、グループに分かれてのグループ提案の授業が展開できない部分もあったが、個人の意見を一覧表にして、全員の考え方を共有しながら、個人の提案力・対話力の向上に努めた。さらに効果を上げるため、今後も3密を避ける対応で、双方向の形式の授業を継続していく。	■新型コロナウイルス感染拡大で、オンライン授業と対面授業が半々であったが、オンライン授業内でも、全体の提案を共有することで、個人の考え力(T)・積極的に参加する力(P)・グループ内での対話力(G)のTPCの3つのポリシー育成に沿って、各個人の能力を向上させることができた。
			継続	介護福祉科	■学科の3つのポリシーを意図し、教育や指導に取り組んでいる。 ■授業、実習を通し、求められる介護福祉士像を目指し指導している。	■学科の3つのポリシーを常に教員間で意識し、教育や指導に取り組んでいる。 ■授業、実習を通し、求められる介護福祉士像を目指し指導している。	■学科会議等を通して、3つのポリシーへの共通理解を促している。 ■立案した学科運営計画をもとに学科教員は個々の目標を掲げ実行している。 ■新型コロナウイルス感染症において実習巡回指導を電話による指導に切り替えた。また、実習帰校日をオンラインに指導した。
			継続	鍼灸医療科	■3つのポリシーについて、学科会議や教員間でしっかりと情報共有と確認を行い、学生指導の強化を図る。	■学科教員間で情報共有と確認をおこない、念頭に置きながら指導に当たっている。 ■新型コロナウイルス感染症に伴う指導要項の変更に対応しながら学科運営計画に沿って実施している。	■新型コロナウイルス感染症に対応した学校養成施設指導要綱と学科運営計画に基づきカリキュラムを終了している。外部臨床実習時間は計画より大幅に減少したが、ディプロマ・ポリシーに重点を置いた学内臨床実習に変更をおこなった。
			継続	看護科	■教育の質的転換を図る上で、①看護の楽しさを深める力のある人材獲得(アドミッション・ポリシー)として、指定校推薦者の複数獲得を図る。また、②個々の教員はカリキュラムの中で国家試験を意識して授業展開を工夫する(カリキュラム・ポリシー)。③実践力が備わっている人材の輩出(ディプロマ・ポリシー)が期待されているが、年度末に評価していく。	■指定校推薦者の複数獲得はなされているが、入学後の学業への取り組みにはばつがみらる。その要因を分析して今後の入学生獲得に生かしていく。 2022年度指定規則改正に向けて、卒業生の評価及びどのような学生を育てたいのか、ひきつづき学科内で議論していく。	■指定校推薦者の複数獲得はなされた。2022年度指定規則改正に向けて学科内のカリキュラム会議等を通して、卒業生の評価を実施した。ディプロマ・ポリシーを一部改正してカリキュラム構成をひきつづき検討していく。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方	■中間点検	■年度末点検
(2) 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	キャプションライター養成科	■関連業界との連携を深め、専門分野の人材育成を推進する。	■業界の実務者と連携の下、授業、企業見学等を行っている。 ■授業内で業界の人材ニーズを学生に伝えていく。	■業界の人材ニーズを踏まえ、関連業界との緊密な連携により実務に直結した人材育成を行った。
			継続	医療秘書科	■実習先病院訪問や医療従事者による特別講演、また第三者委員会や卒業生からご提供いただく情報を生かし、学生の職業観醸成を促し専門分野の人材育成を推進する。	■例年病院実習先への訪問や医療従事者による特別講演時に得られる情報は多いが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、今年度はいずれも中止となった。実習の代替授業を開発する過程において、複数の医療機関より有用な多くの情報を得ることができたため、これを今後の人材育成に生かしていく。	■病院事務実習の代替授業となるオンデマンド教材開発の過程において、医療機関の実務者や卒業生から情報を得ることができた。オンデマンド教材で学んだ学生からは、体系的な知識が得られたとの感想があり、概ね好評だった。 ■10月に卒業生の就職先でもあるセプト審査会社に求職いただき、2年生医療事務コース生を対象に特別授業を実施した。この際も情報を得られた。 ■1年生対象の特別講演、病院見学は全て中止となった。職業観の醸成の遅れを、次年度で取り戻す対策が必要である。
			継続	医療マネジメント科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任教員や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに合った人材の育成を目指す。	■病院事務実習は、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため全て中止となった。代替授業のため、医療機関に出向き取材を行った。また来校いただいたの取材により医療機関の現状や課題、今後の展望についての情報収集を行った。また、卒業生へのインタビュー取材実施により、職種毎の業務内容の把握、医療現場での現状を知り、多くの情報を収集することができた。 ■特別講演は全て中止となった。	■中止となった病院事務実習の代替授業実施のため、その過程において多くの医療機関と交流し、実務者から直接実際の医療現場の情報収集をすることができた。これらの情報を統合し業界のニーズに応じた人材育成に活用していく。
			継続	診療情報管理専攻科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任教員や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに合った人材の育成を目指す。	■診療情報管理士実習は、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため全て中止となった。7月に実施した代替授業において、現役診療情報管理士の卒業生数名の指導により、実際の業務内容の詳細説明、実践体験等を実施し、情報収集を行った。 ■5月開催予定が中止となっていた医療マネジメント学会が10月に開催されることになり、担当教員が参加して情報収集を行う予定である。	■中止となった病院事務実習の代替授業実施のため、その過程において多くの医療機関と交流し、実務者から直接実際の医療現場の情報収集をすることができた。これらの情報を統合し業界のニーズに応じた人材育成に活用していく。 ■医療マネジメント学会に参加し情報収集を行った。
			継続	くすり・調剤事務科	■定期的に関連企業、関連協会との打ち合わせを実施していく。	■新型コロナウイルス感染症の観点から、対面での打ち合わせは困難であったので、電話とメールのやり取りで打ち合わせを実施した。当分は、この方法での打ち合わせとせざるを得ない。	■関連企業、関連協会とは、メールでのやりとり、ならびに、Zoomによるオンライン会議により、打ち合わせが実施できた。
			継続	介護福祉科	■各領域のねらいや教育内容の目的、主旨を踏まえ、相互の体系的な関連性・順次性を考慮した教育内容を図る。 ■関連業界との情報交換・共有をし、教育の中に取り入れていくを精査し活用していく。	■新型コロナウイルス感染症において研修や関連業界との情報交換が十分に行われていない。 ■教員は各担当科目の目的や主旨を踏まえ、毎回の授業に取り組んでいる。	■新型コロナウイルス感染症で予定していた研修等が中止となり、参加が十分できなかった。 ■関連業界と連携しオンラインによる特別授業を2月に実施した。
			継続	鍼灸医療科	■専門分野の学会や研究会へ積極的に参加し、そこで得た情報や動向について教員間で共有し、授業等にも反映させていく。 ■鍼灸分野以外でも連携して活かせる分野をカリキュラムに導入し幅広い鍼灸者を育成する。	■新型コロナウイルス感染症で学会や研究会が激減している中で、新カリキュラムに対応した研究会等に参加、授業に取り組んでいる。 ■外部臨床実習は予定より1/3に削減された為、臨床実習計画を変更し実施している。	■オンライン形式での勉強会に参加、新カリキュラムで新たに設けた分野に授業に反映させている。また、外部臨床は学内臨床実習に切り替え、単位時間数の確保、実施に至った。 ■オンライン授業の実施計画を作成し、全教員間でノウハウを共有し新型コロナウイルス感染症に対応した授業を実施することができた。
(4) 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱えているか	○外国人の支援や社会人の学び直しは社会が求めていることであるため、先を見越しての運営をぜひ進めていただきたい。	○外国人の支援や社会人の学び直しは社会が求めていることであるため、先を見越しての運営をぜひ進めていただきたい。	継続	校長	■外国人の学びを支援するために留学生向けの奨学金を拡充するとともに、社会人の学び直しの教育についても、専門課程屋間部だけでなく、夜間・休日等の講座も含め、引き続き具体化を図る。	■新型コロナウイルス感染症の現状にて、実習施設の教育担当者及び実習指導者と密に連携を取りながら進めている。引き続き連携をはかっていく。 ■留学生向けの奨学金の拡充については、前進が見られたが、新型コロナウイルスの影響拡大の影響で、外国人や社会人を対象とした教育に関する具体的な活動は、中断を余儀なくされている。	■新型コロナウイルス感染症で1月～年度末にかけての臨床実習は中止となり、代替寮の学内実習に切り替えた。分野によっては指導者の派遣やオンラインによる指導の協力が得られた。 ■新型コロナウイルス感染症の影響で人の流れが大幅に制限され、外国人や社会人を対象とした教育活動は停滞を余儀なくされたが、新型コロナウイルス感染症後の活動再開に向けての準備は着実に進めることができた。
			2 学校運営	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとしている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	継続	校長
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1) 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫するよう引き続き努めてほしい。 ○社会に出て、すぐに使うことのできる知識や技術も大事であるが、物事を継続してやり抜く力や、押さえられても元に戻ることのできる力も身につけるために、専門学校の2・3年間で何ができるかを引き続き考えたい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性があるとと思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。	継続	校長	■2021年度に予定されている専門課程屋間部の学科再編を視野に入れつつ、各学科・委員会等においても、PDCAサイクルによる改善を、継続的に推進する。	■オンライン授業の運営方針など、新型コロナウイルス感染症中の教育活動に関わる目標の共有等については、問題なく実行できた。 ■次年度に向けた専門課程屋間部の学科の改編・再編を実施するとともに、各学科においてはPDCAサイクルによるカリキュラム・授業の改善が、継続的に進められている。	■新型コロナウイルス感染症において、一部の教育活動は制限されたものの、教職員間で運営方針や目標の共有については、特に問題なく行われている。 ■新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の教育活動は制限されたものの、教職員間で運営方針や目標の共有については、特に問題なく行われている。
			継続	キャプションライター養成科	■技能教育を通じた達成感の積み重ねに配慮した教育を行う。	■持続力と学習の継続性を重視し、動機づけに配慮した授業を行っている。	■字幕制作会社とテレビ局の字幕制作現場の見学、業界関係者の特別講義等の実施により学習に対する動機づけと職業意識向上を図った結果、実習での確かな成果を確認した。
			継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会におけるご意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。またデジタルネイティブ世代である学生に向けた学習効果を高める教育方法を実践する。 ■専門知識・技能の習得とともに、キャリア教育の一環としてレジリエンスの指導方法を模索する。	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会において伺ったご意見を、2021年度カリキュラムに基づきシラバス作成に反映させる準備を進めている。 ■期せずして始まったオンライン授業により、教員のITスキルアップが図られた。今後はより学習効果を高めるICTの利用方法を研究していく。 ■専門知識・技能の習得とともに、キャリア教育の一環として対話を通じたレジリエンスの指導方法を模索する。	■2021年度カリキュラムについては、学校関係者委員会および教育課程編成委員会と伺ったご意見を基に、学生が現場で求められる社会人として成長できることを念頭に編成した。 ■オンラインによる授業や学生指導は、すでに日常的に実践されており、学科教員のICTスキルは大きく向上した。 ■学生のレジリエンスについては、次年度に向けた学科教員間で共通認識を持ち取り組む。
継続	医療マネジメント科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なのかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺って、2021年度から再編される新学科のカリキュラムの見直しを行った。 ■実習代替授業において、医療機関従事者の方や卒業生のお話を聴く機会を設け、自分の将来のキャリアプラン・目標を設定し、その実現のために自主的、能動的に学ぶことができるよう指導した。	■2021年度開講する新学科のカリキュラムについては、委員会の意見を反映させた教育内容が第2回学校関係者評価委員会、第2回医療事務分野教育課程委員会において高い評価を得ることができた。引き続き委員会およびその他の様々な機会を通して情報収集を行い、より良いカリキュラムの策定を目指す。 ■実習が全くできない状況下において、可能な範囲内でのあらゆる手段を用いて、医療現場での実際の業務を疑似体験できるような企画を実施し指導を行った。 ■オンライン授業を継続して行うことにより、学科教員OICTスキルが向上した。			

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方	中間点検	年度末点検
〇発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立とされている。引き続きの取り組みが望まれる。			継続	診療情報管理専攻科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なのかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にご意見を伺って、2021年度から再編成される新学部のカリキュラムの見直しを行った。 ■実習代替授業において卒業生との交流の機会を設け、自分の将来のキャリアプラン・目標を設定し、その実現のために自主的、能動的に学ぶことができるよう指導した。	■2021年度開講する新学部のカリキュラムについては、委員会の意見を反映させた教育内容が第2回学校関係者評価委員会、第2回医療事務分野教育課程委員会において高い評価を得ることができた。引き続き委員会およびその他の様々な機会を通して情報収集を行い、より良いカリキュラムの策定を目指す。 ■実習が全くできない状況下において、可能な範囲内でのあらゆる手段を用いて、医療現場での実際の業務を疑似体験できるような企画を実施し指導を行った。 ■オンライン授業を継続して行うことにより、学科教員のICTスキルが向上した。
			継続	くすり・調剤事務科	■双方向の授業方式の導入により、時にはグループ分けして、テーマを決めて討議、発表などを通して課題解決能力などを身につける。 ■「応対の技術」などの授業内で、学んだ知識が、応対の演習を通して役立つことを理解することで、学ぶことの動機につなげていく。	■教室内での3密を避けるため、グループワークはできなかったが、個人の意見、提案を一覧表にして全員が共有することで、種々の考え方、意見、提案などを知らずして、個人の問題解決能力の向上に努めた。今後も、この方法で継続していく。	■新型コロナウイルス感染拡大で、対面授業とオンライン授業を半々の割合で実施した。どちらも、全員の提案を一覧表にして、種々の提案を知ること、個人の問題解決能力の向上に役立てることができた。
			継続	介護福祉科	■多様な学生への授業、実習等の個別配慮をしていく。 ■授業では導入部分を創意工夫し伝え、学生が意欲的に学習できるきっかけをつくる。	■新型コロナウイルス感染症による実習日程の変更をした。 ■5月に専任教員による双方向オンライン授業を実施した。講義科目を優先にし時間割の調整をした。 ■学生の理解度を確認しながら、教員は授業構成を調整している。	■新型コロナウイルス感染症において実習施設の確保が難しく、卒業生の就職先等にあまり協力を得た。 ■後期はオンライン授業を増やしたが、接続のトラブル等も生じ、学生、教員共ICT機器による新しい授業形態になれる意味ではよい機会があった。学生の理解度は今後検証し改善していきたい。
			継続	鍼灸医療科	■オンライン学習が学生にとって与える影響についてメリットとデメリットを検証し、今後の新型コロナウイルス感染症第2波時に考ええる。 ■Googlefoamを活用し学生のモチベーションを継続、個々のレベルに合わせた個別対応を実施する。	■6月より一部を除き対面授業に切り替わったが、一部学生が不登校気味となった。オンライン授業と対面授業を併用することでモチベーションの維持を図った。 ■外部臨床実習施設での実習を通して、低下気味であったコミュニケーション力の回復ができたと感じている。	■Zoomと対面授業の同時並行を実施することで不登校気味であった学生において、後期の対面授業へとスムーズに移行することができた。実技は対面授業が不可欠である。比較的新型コロナウイルス感染症が安定していた9月末から11月中旬に集中させ実施した。その際にも脱落することなく学生全員が出席することなく単位修得ができた。
			継続	看護科	■新型コロナウイルス感染症の状況を見極めつつ、実習指導者の方に校内実習へのサポート協力を依頼し相互の学びにつなげていく。 ■学校と施設との情報共有を密にし継続教育の充実を図って行く。	■前期は、職業人としての意識づくり、技術習得としての実習の在り方を見つめなおす機会となった。これを機に当校学生の特徴も踏まえながら改めて何を学ばせたいのか教員間で思案している。	■新型コロナウイルス感染症の状況で臨地実習は減縮された。しかし、学内実習を取り入れたことで思考を整理する時間の確保はできた。また、課題を達成するために自ら動く姿勢は増われていると考える。一方、臨地でのスピード感、臨床的な判断過程を実体験できる学びの工夫を考へていく。
			継続	キャプションライター養成科	■各教科授業内での自己紹介の機会や発表、「キャリアサポートプログラム」の面接練習等により自己表現力の向上を図る。	■「キャリアサポートプログラム」の面接練習等で自己表現力の向上を図っている。	■各教科授業内での自己紹介、就職活動支援、個人面談、実習指導を通して自己表現力の向上を図った。
			継続	医療秘書科	■自分の考えをアサーティブに伝えることの必要性を理解させ、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム等で自己表現力の向上を図る。	■2年次前期の病院事務実習指導、後期のプレゼンテーション演習、病棟コミュニケーション実務(ワークコース)等、複数の教科において、発表形式の授業を取り入れている。 ■聞き手としても、多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を研究中等である。	■今年度は、対面授業が開始してからも感染拡大防止の観点からグループワークや発表形式の授業を取り入れることは難しかったが、オンライン授業やオンラインによるグループワーク、面談などを積極的に取り入れた。人前で表現する第一歩として、落ち着いた環境で自分の意見を自由に述べるというトレーニングができた。 ■Withコロナに向け、就活のオンライン面談に繋がるスキルが身についた。
			継続	医療マシント科	■授業だけでなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を終り意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。	■オンライン授業、分散授業等により、クラス全体での対面授業の開始が遅れたため、また、フェードバック、体育祭等行事が全て中止となったため、予定通りには進捗していないが、クラス内で自分で考え、意見を発信する指導は各担当教員が行っている。 ■2年生に関しては、「病院事務実習指導」の授業においてグループワークを行い、グループ毎にテーマを決め、研究発表を行った。	■今年度はクラス全員が集めての一斉授業が難しく、対面の発表の機会は十分に用意できなかったが、オンラインにより自分の考えを文章にまとめる発表する機会が増え、まずは自分の考えを自身の言葉で表現する第一歩となった。また、双方向オンラインツールを通じて互いに意見を述べ、聴き、話し合うことにより徐々に慣れ、活発な対話ができるようになった。
			継続	診療情報管理専攻科	■管理士実習では、実習の成果をまとめて発表する機会が設けられており、病院側からのフィードバックを指導に活かしているが、継続して実施する。	■オンライン授業、分散授業等により、クラス全体での対面授業の開始が遅れたため、また、フェードバック、体育祭等行事が全て中止となったため、予定通りには進捗していないが、クラス内で自分で考え、意見を発信する指導は各担当教員が行っている。	■今年度はクラス全員が集めての一斉授業が難しく、対面の発表の機会は十分に用意できなかったが、オンラインにより自分の考えを文章にまとめる発表する機会が増え、オンラインツールの使用法に習熟し、使いこなす様子が見られた。 ■診療情報管理専攻科では多くの授業がオンラインでの実施となり、いち早くオンラインへ対応した教材等の準備、環境を整えたため、学生もスムーズに順応できた。
			継続	くすり・調剤事務科	■「ドラッグストアのマネジメント」などの科目内で、テーマを決めて、グループ討議・発表、また個人発表などで自分の考えをまとめて発表の能力をつけさせ、就職活動及び就職後に役立っている。	■教室内での3密を避けるため、グループワークを取りやめ、個人での提案を一覧表にして、全員が異なる意見や提案を知ることにより、個人の能力向上に努めた。今後も、この方法で継続していく。	■新型コロナウイルス感染拡大で、オンライン授業と対面授業を半々の割合で実施したが、オンライン授業でも、全員の提案を共有する形で、個々の能力向上に役立てることができた。
			継続	介護福祉科	■各授業では継続し発表の機会を多した授業展開をしていく。 ■発表時は、学生の特性を把握し個々に合わせた段階的に進めていく。	■ケーススタディ発表会を12月に予定している。 ■感染予防対策を講じながら、各授業の中で意見を出せる機会を設けている。	■ケーススタディ発表会を12月に実施した。1年生も参加し、質問等をし双方の学びとなった。 ■授業でZoomのブレイクアウト機能を活用し、グループワークをした。 ■各授業では、発表の機会を作りプレゼンテーション力を養っている。
			継続	鍼灸医療科	■3年生は症例報告会での発表の場を設けている。	■症例報告会は12月に向けて準備中である。	■症例報告会は感染対策を講じ、多くの参観者のもと12月に無事に実施することができた。
			継続	看護科	■発表形式の授業を通してプレゼンテーション力を高める工夫を継続していく。	■看護研究発表会及び合同カンファレンスを通じて司会者、発表者を経験することで、個々のプレゼンテーション力を見つめなおす機会となっている。引き続き学生主体の機会を設けていく。	■研究発表会、看護発表会等3学年が揃って参加する場合は、学年を超えての質問や意見が生まれ、学びを深める機会となっている。 ■講義、実習では発表の機会を取り入れ、プレゼンテーション力を養っている。
			新規	キャプションライター養成科	■クラス運営や学園祭のクラス企画運営等に対する学生一人一人の主体的な取り組みを支援する。	■専門科目の授業を通じ、目標設定、学習計画立案への主体的な取り組みを促進している。	■専門科目の授業において、練習用テキストの選択、練習プログラムの立案、実践を学生に任せる機会を設けて主体的取り組みを促進するとともに、自発的学習行動に向けた空気の醸成に配慮した。
			新規	医療秘書科	■対面授業とオンライン授業の双方において、講義形式の授業の中にも学生の主体的な学びの要素を取り入れ、課題を主体的に解決する力を養う。	■現状としてソーシャルディスタンスを保つ必要があるが、一部の教科においてZoomのブレイクアウトルーム機能等を用いてグループワークを実践する等、学生の主体的な授業への参加を促進している。	■ソーシャルディスタンスの必要性から、学生同士の協同学習には制限があったが、オンライン授業においては双方向のコミュニケーションを意識し、学生の主体的な取り組みを実施している。
		新規	医療マシント科	■一方的に講義を行う従来の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。まず、5月に開始したオンライン授業において、可能な科目から取り入れていく。	■一部の教科においては、オンラインでの双方向のコミュニケーションを通じて、アクティブラーニング型授業への変換を行っている。また、対面授業においても、ただ聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。	■適応できる教科からアクティブラーニング型授業の変換を行っている。特にオンライン授業においては、様々なツールを用いて双方向のコミュニケーションを意図したICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を実施している。	

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方	中間点検	年度末点検			
			新規	診療情報管理専攻科	■一方的に講義を行う従来の授業形式にとらわれず、対話のできるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。まず、5月に開始したオンライン授業において、可能な科目から取り入れていく。	■一部の教科においては、オンラインでの双方向のコミュニケーションを通じて、アクティブラーニング型授業への変換を行っている。特にアプリを使用した授業では自主的に学ぶ方法が成果を上げている。また、対面型授業においても、ただ聴くだけの授業から、ICT機器を活用する等アクティブラーニング型授業の手法を取り入れた参加型に変換しつつある。	■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への変換を行っている。特にアプリを使用した授業では自主的に学ぶ方法が成果を上げている。また、対面型授業においても、ただ聴くだけの授業から、ICT機器を活用する等アクティブラーニング型授業の手法を取り入れた参加型に変換しつつある。			
			新規	くすり・調剤事務科	■毎回、授業後半に小テストを実施して学習した内容の確認と、双方向授業において、それらの知識を使っての応答の演習、提案する演習、考察する演習をすることで、自分から積極的に学ぶ姿勢を身につけていく。	■授業後半での小テストの実施を通して、間違えたところ、できなかったところを復習すること、自分自身で学習していく習慣を身につけていくように指導した。今後もこの方法の授業を継続していく。	■新型コロナウイルス感染拡大で、オンライン授業では課題提出形式で実施して、次の対面授業内で、それらの小テストを実施した。理解度も向上した。			
			新規	介護福祉科	■学生が主体となる授業になるよう、体験学習、グループワーク、ディスカッションを引き続き行っていく。苦手とする学生には溶け込めるよう教員側も配慮していく。	■感染予防対策を守り、学生主体の授業を進めている。 ■学生が全員参加できるよう、教員側が配慮している。 ■課題の配付、提出、動画、オンライン授業等、各種ツールを活用している。 ■専任教員によるオンライン授業を実施した。	■オンライン授業が可能な科目は、オンラインに切り替えた。教員の一方的な授業にならないようブレイクアウト機能を活用し、グループワークも入れながら実施した。 ■兼任講師にも協力をいただきオンライン授業を行った。課題の提出はGoogleクラスルームを使用した。			
			新規	鍼灸医療科	■オンライン授業を導入し、課題の配布、提出はGoogleclassroomを使用する。特に国家試験対策授業および模擬試験は、データ解析がスピーディーにおこなえるGooglefoamを利用し学生へのフィードバックを実施する。	■早い段階でオンライン授業を実施できたことで、大幅なカリキュラムの遅れはないが、長期的な学生へのモチベーションやコミュニケーション力、技術力の低下につながりやすいと感じている。 ■今後の状況を踏まえ臨機応変に対応できるよう準備を進めている。	■Zoomと対面授業の同時並行を実施。また、Google classroomを使用し課題を履修することで学生のモチベーション維持、向上に繋がったと感じている。 ■緊急事態宣言の発出に伴い、オンラインによる国家試験対策及び面談を実施し、学生の感染防止、体調管理等に配慮している。			
			新規	看護科	■オンライン授業、対面授業双方に活用できるような視聴教材の厳選を行い、教材でのイメージ化を図りながらディスカッションを深める工夫を推奨していく。	■東京都及び職業団体等で教材の貸し出しや、一定期間の貸与、寄贈が行われるようになってきた。それらを利用して実践的教育への工夫を続ける。	■東京都よりシミュレーターの貸し出しを受け、成人看護学実習の際に実践できた。オンライン授業に関してはカリキュラム構成の課題と外部講師の協力を得られたところから来年度、組み込んでいく。			
					○介護福祉士の養成課程は、大学が2019年度、専門学校が2021年度からカリキュラム変更となる。きちんと対応したカリキュラム・教育内容となるように検討を進めてほしい。	継続	介護福祉科	■2021年度新カリキュラムに向け、コマごとの指導案の充実を図る。 ■毎回の授業では、理解度を確認しながら次回授業への準備を図る。	■教員ごとに授業の理解度をペーパーやGoogleクラスルームを活用し、授業に反映している。 ■複数教員科目は事前に打ち合わせし、共通認識を持ち進めている。	■新カリキュラム移行準備は整った。 ■対面授業、オンライン授業双方に対応できるよう教員のスキルアップを図っていく。
			(2)教育課程について、外部の意見が反映しているか	○業界出身の兼任講師との打ち合わせ、卒業生や就職先との懇談などから得た情報をカリキュラムに生かす努力を引き続き行ってほしい。 ○カリキュラムの編成は、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会以外の、外部関係者の声も積極的に取り入れる仕組みを作ってほしい。	継続	キャプションライター養成科	■教育課程に関して業界講師と打ち合わせを行い、指導内容や指導のタイミングを見直す。 ■募集を停止しているため来年度のカリキュラムは編成しない。	■新型コロナウイルス感染症を考慮した教育課程の見直しに当たり、兼任講師の意見を教育課程に反映させた。	■新型コロナウイルス感染症の影響を受けて教育課程を見直し、兼任講師の意見も反映させて一部科目を前期から後期に移した。緊急事態宣言下においては兼任講師と実習日程を見直し、密を避ける方向で計画を組んでいた。	
						継続	医療秘書科	■業界出身の兼任講師や卒業生、就職先医療機関との情報交換を積極的にし、業界のニーズに即したカリキュラム編成に努める。	■業界出身の兼任講師や卒業生、就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。	■業界出身の兼任講師や卒業生、就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報収集に努めている。
						継続	医療マネジメント科	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多種多様な立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集し、カリキュラムなどの教育内容に反映させている。特に新学科のカリキュラム編成には大いに参考とした。
						継続	診療情報管理専攻科	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多種多様な立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集し、カリキュラムなどの教育内容に反映させている。特に新学科のカリキュラム編成には大いに参考とした。
			継続	くすり・調剤事務科	■業界、協会との打ち合わせ会、卒業生との交流などを通して、求められているカリキュラムの情報を入手していく。	■新型コロナウイルス感染の観点から、業界、協会とは、電話とメールでの打ち合わせを実施した。卒業生との懇談は、学校のホームページでくすり科の情報を発信しているが、それにより卒業生の学校への訪問を促している。実際、卒業生の訪問があり、科目などの意見を徴収した。	■卒業生と在校生とのZoomによるオンライン懇談を実施した。そこで、卒業後に必要と感じたカリキュラムの情報を、卒業生から入手できた。 ■第1回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会が、2020年8月に開催され、委員の方々のアドバイスも入手できた。今後の委員会でのアドバイスをとり入れている。			
			継続	介護福祉科	■複数の資格が自信に繋がると、科目「介護の基本Ⅲ」では、レクリエーション介護士2級が取得できる内容を織り込んだ。 ■教育課程編成委員会では、今後も委員からの助言をいただき、カリキュラムに反映していく。	■今年度から科目の中にレクリエーション介護士2級を取得できる内容を織り込んだ。全員が取得できている。 ■7月に教育課程編成委員会が開催され、意見をいただきカリキュラムに反映している。	■教育課程編成委員会での意見や兼任講師から業界の情報等をいただき授業に引き続き反映していきたい。			
			継続	鍼灸医療科	■新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学内臨床実習施設内の実習が中心となる。学外臨床実習施設での意見を反映させ、目的や評価に対して共通認識のともを進めていく。	■外部臨床実習施設の指導者より、評価表の記入および実習後ヒアリングを実施している。ご意見をもとに後期の学内臨床実習内容に反映させる。	■新型コロナウイルス感染症に伴う外部臨床実習から内部臨床実習に変更し、2年次の外部臨床実習時のヒアリングシートや評価表を参考にした実習内容を実施済みである。			
			継続	看護科	■卒業生や業界出身の兼任講師、関連医療機関との情報共有は密に行い、技術項目などは残すべく内容と変えるべき内容の検討を常に行っていく。	■教育課程編成委員会での委員の方からの貴重な意見を、引き続きカリキュラム運営に生かしていく。	■兼任講師や教育課程編成委員会から業界関連の情報等をいただき、ひきつづき授業等に反映させていきたい。			
			継続	CSC	■実習や就職実績のある病院への訪問や就職模擬面接会での聞き取り結果を、キャリアサポートプログラムの日程や内容に生かすよう取り組んでいる。また卒業生の声も卒業生キャリア報告会や日頃の学校への訪問したものへのアンケートを通じての聞き取りを行い、意見を聞いている。これらを引き続き行っていく。	■実習や就職模擬面接会、卒業生キャリア報告会が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に中止や縮小となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っていく。	■実習や就職模擬面接会、卒業生キャリア報告会が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に中止や縮小となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っていく。			
(4)授業評価を実施しているか	○アンケート結果をより有効に活用する意味からも、引き続き定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	■2020年度より質問項目が変更となった。様子を見て、検討が必要であれば自己点検・自己評価委員会の議題に挙げる。	■前期授業アンケートを実施したが、現在のところ、改善点は学がっていない。	■前期・後期の授業アンケートを実施したが、問題はなかった。次年度も同様に行う。				
4. 資格・免許の取得の指導体制	○国家試験を受験する学科においては、受験資格の要件を明確に説明して指導を行っている。引き続き試験問題の傾向に合わせた指導に期待している。	継続	介護福祉科	■介護福祉士の国家試験義務化が、さらに経過措置が5年間延長(2026年度まで)となったが、在学中の全員合格を目指し各授業での対策や対策講座を継続していく。 ■国家試験受験説明会を実施している。保護者には保護者会において説明を継続していく。	■在学中の国家試験全員合格を目指し、昨年同様に対策講座、介護福祉セミナーでの対策授業を予定している。 ■国家試験受験説明会は8月に実施した。保護者会には新型コロナウイルス感染予防対策として中止した。	■1月の国家試験日までの2年生の授業を(介護福祉ゼミ含む)オンラインで対応した。 ■対策講座は講師の都合で中止になり、介護福祉ゼミで教員が科目ごとの対策講座をおこなった。希望者にはオンラインでの個別対応をした。				
			継続	鍼灸医療科	■受験資格要件は明確にし、文書で学生や保護者に配布している。 ■国家試験の問題は学科内で出題傾向や解答率など分析し、情報共有をしている。各教科担当は授業に反映し指導にあたる。 ■模擬試験実施後、個人成績表を作成し、個々に応じた指導に当たる。	■受験資格要件は明確に学生へ周知できている。 ■模擬試験は計画通り実施し学生へのフィードバックおよび個人面談をおこなっている。 ■成績不振の学生には、個別指導をスタートしている。	■受験資格要件をクリアし全員が受験申請済み。 ■緊急事態宣言の発出後もオンラインによる国家試験対策及び面談を実施し、学生の感染防止、体調管理等に配慮している。 ■成績不振の学生には、オンラインでの個別指導を実施することで、時間を有効的に活用でき卒業単位修得済みである。			

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方	■中間点検	■年度末点検
			継続	看護科	<p>■看護師養成所の卒業判定をもって、国家試験受験資格が得られることを入学時オリエンテーションで説明する。</p> <p>■卒業要件としての単位取得に関わる内容は学生ハンドブックに記載し、学年が進むことまた単位に絡む状況発生時に随時学生及び保護者に説明している。</p> <p>■国家試験対策としては、1年次、2年次は低学年の模擬試験を実施し、3年次には少人数のサポート体制をとって指導を固めているが、新型コロナウイルス感染症補における新たな国家試験対策を検討している。</p>	<p>■新型コロナウイルス感染症補においては、通年行われていた校外模擬試験や予備校でのセミナーが全て中止となっている為、学生個々は自分の実力が計り知れない状況の中で学習を進めている。学内における国家試験対策の見直し強化をはかって行く。</p>	<p>■後期は全国レベルの模擬試験を3回実施し、学生個々のレベルに合わせた教員のサポート体制を整えた。外部講師による必修対策講座も予定通り行えた。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症補では国家試験の追試験は行われないうこと、感染疑いの場合は受験資格が得られないという厳しい状況を鑑みて、国家試験対策講座を前倒ししてスケジュールを組み、試験日1か月前には自宅学習期間とした。オンラインでの学生対応を随時取り入れていった。</p> <p>■全員無事受験することが出来た。</p>
	5.教員・教員組織 (2)教員の資質向上への取組	<p>○授業公開は、兼任講師の参加について、さらなる拡大を期待している。</p> <p>○年2回の学内研修は、内容が良いので兼任講師も参加できるようにしてほしい。</p>	継続	教務委員会	<p>■授業公開については、2020年度は後期での実施を予定している。従来の対面授業の公開のほか、オンライン授業での動画を配信し、それを視聴することで授業公開とする手法も検討している。参観する時間を拘束しない手法であるため、より多くの兼任教員の参加を促していく。</p> <p>■2020年度の教員研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う授業の遅れに対応するため、従来通りの集合型による開催が難しい状況にある。動画配信により時間や場所にとらわれない形式での研修方法を模索し、兼任教員も参加できるように周知している。</p>	<p>■授業公開は後期での実施を予定している。感染症対策しつつ、今後の感染状況に応じて弾力的に対応できるように準備を進めている。</p> <p>■対面による教職員研修を6月に実施した。内容はオンラインにより動画配信を行い、兼任教員も参加した。</p>	<p>■授業公開は現行のしくみが教員間において定着してきたこと、参観者によって教室が密になる可能性があることから、今年度は後期授業期間を授業公開期間として実施した。これにより参観者の分散を図ることができた。またオンライン授業も公開対象授業として実施した。</p>
	5.教員・教員組織 (3)教員の組織体制の整備	<p>○専任教員と兼任講師の情報交換を学科教員会以外でも進め、学校全体が良くなっていくように両者の連携、協力による努力を今後も続けてほしい。</p>	継続	校長	<p>■兼任講師の方々も多忙で、メンバーが集合しての会合は日程調整が難しいのが現実なため、Zoom等を利用してオンラインでの学科教員会等の実施も検討したい。</p>	<p>■今年の上半期は、新型コロナウイルス感染症補の中で兼任講師と直接対面する機会が減る一方、オンラインで接する機会は、むしろ増えた。</p>	<p>■新型コロナウイルス感染症補においてオンラインで兼任講師と連絡をとるケースが増えた。今後も兼任講師と、より緊密に連携していくため、オンラインの有効活用を図りたい。</p>
			継続	キャプショ ンライター 養成科	<p>■兼任教員との日常的な連絡、打ち合わせにより学生状況の把握に努め、学生対応の円滑化を図る。</p>	<p>■兼任教員と学生情報の共有を図りながら学生対応に当たっている。</p>	<p>■兼任教員と情報交換や打ち合わせを頻繁に行うなど、連携体制強化のもとで学生対応と学科運営の円滑化を図った。</p>
			継続	医療秘書科	<p>■年度当初の学科教員会を開催することができなかったが、授業のオンライン化を実施するためのインフラが進み、専任教員と兼任講師間でGmailでのメールのやり取り、ドライブの共有が可能になったため、これらを生かした情報共有を推進する。</p>	<p>■学科教員会を開催できなかったが、兼任講師の方々は、学校付与のGmailや、ご出講日に対面での情報共有を行っている。</p> <p>■オンライン型(双方向、オンデマンド、課題)や対面型といった授業形態が混合したため、Googleドライブを用いて実感を把握している。</p>	<p>■オンライン授業実施に伴いインフラ整備が進んだことも影響し、対面以外での兼任講師との交流の機会が増えた。今後も、効率の良い新しい交流方法を探り、より緊密な協力関係を継続していく。</p>
			継続	医療 マナメント科	<p>■年度当初の学科教員会は、新型コロナウイルス感染症防止のため中止となった。兼任教員の先生方の日程調整を再度行い、別途実施することは極めて難しい。学科会議という形式ではなく、毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取ることで補完し、連携、協力する関係を構築していく。</p>	<p>■学科教員会は中止となったが、兼任教員の先生方は日常的に対面やメールでの密なコミュニケーションを意識して行っている。毎回の授業の際にできるだけ声かけを行い、意思疎通を図っている。</p>	<p>■オンライン授業が進み、対面での意見交換の機会が減少したが、それに伴い兼任講師の先生方とはメールでの交流が増え、かえって以前より頻繁に情報交換、意見交換ができるようになった。連携、協力する関係は変わらず保たれていた。</p>
			継続	診療情報管理 専攻科	<p>■年度当初の学科教員会は、新型コロナウイルス感染症防止のため中止となった。兼任教員の先生方の日程調整を再度行い、別途実施することは極めて難しい。学科会議という形式ではなく、毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取ることで補完し、連携、協力する関係を構築していく。</p>	<p>■学科教員会は中止となったが、兼任教員の先生方は日常的に対面やメールでの密なコミュニケーションを意識して行っている。毎回の授業の際にできるだけ声かけを行い、意思疎通を図っている。</p>	<p>■オンライン授業が進み、対面での意見交換の機会が減少したが、それに伴い兼任講師の先生方とはメールでの交流が増え、かえって以前より頻繁に情報交換、意見交換ができるようになった。連携、協力する関係は変わらず保たれていた。</p>
			継続	くすり・ 調剤事務科	<p>■兼任講師の授業出席日に、授業担当クラスの状況、遅刻欠席状況、授業態度、テスト結果などの情報交換をしていく。また、学科内で教師との連絡打ち合わせをこまめに実施していく。</p>	<p>■学科内にて逐次、兼任講師とは、きめ細かく打ち合わせができていく。今後も継続していく。</p>	<p>■学科内にて逐次、兼任講師とは、きめ細かく打ち合わせができた。</p>
			継続	介護福祉科	<p>■兼任講師とは、学科教員会以外でも授業の際やメール等でのやり取りができていくので継続していく。4月の学科教員会以外でも必要時は開催していく。</p>	<p>■兼任講師とは、講義にいらした際には情報交換・共有を図っている。また、メールでの連絡を活用している。</p>	<p>■兼任講師とは、授業後に声掛けし、情報交換、情報の共有を図っている。</p> <p>■オンライン授業では、Googleドライブを活用し、共有している。</p>
			継続	鍼灸医療科	<p>■鍼灸医療科の教員全体でメーリングリストを作成している。適宜、情報の共有を図っている。また、兼任教員の授業日には直接コミュニケーションを図る。</p>	<p>■新型コロナウイルス感染症補での授業変更や衛生管理において教員間で連携を強化し課題なく実施できている。</p> <p>■オンライン授業に伴う、トラブルは情報共有し、協力しながら解決にあたった。</p>	<p>■コロナ禍に応じた時間割や授業形態の変更において、専任、兼任教員間で連携し、滞りなくカリキュラムを終了した。</p> <p>■他学科の期の途中での授業応援要請にも対応するなど他学科との連携でも貢献した。</p>
			継続	看護科	<p>■担任と兼任講師で情報の共有を図り、クラス運営に反映させていく。</p> <p>■各学年の状況や学生から講師への要望など、専任教員間で情報共有をはかり協力してより良い学習環境を整えている。</p>	<p>■学科を超えて、非常勤教員のご紹介、推薦をいたしたき大変有難い。引き続き情報共有をしていく。</p> <p>■副担任を固定しないことにより、専任教員間での情報共有及び協力体制が取れてきている。</p>	<p>■兼任講師には授業後に声掛けをし、クラスの雰囲気、理解度、気になる事項等の情報共有をはかっている。</p>
4	学修成果 2. 資格、免許 の取得率	<p>○資格・検定取得の目標は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして語るように、引き続きしっかりと進めてほしい。</p>	継続	校長	<p>■昨年度は資格・検定の取得において、各学科でかなり良好な結果が出たため、本年度も学科運営計画に基づいて各学科で着実に取り組みを進め、成果に結びつけたい。</p>	<p>■今年度は6月に実施予定だった検定試験の多くが中止となったが、後期実施の検定・資格試験に向けて、各学科で準備を進めている。</p>	<p>■検定・資格試験対策については、新型コロナウイルス感染症補の中、オンラインの有効活用も図りつつ、各学科において着実に準備を進めた。</p>
			継続	キャプショ ンライター 養成科	<p>■技能検定において昨年度と同等の結果が得られるよう指導に当たる。</p>	<p>■実施団体の事情により技能検定受験機会が得られていない。</p>	<p>■実施団体の事情により技能検定の受験機会が得られていない。</p>
			継続	医療秘書科	<p>■学科運営計画に示した卒業時検定合格者の達成に向け、一部科目については進度別クラス編成を継続する。また2年次後期の検定にも挑戦できる科目配置にしているため、検定上位級と医師事務作業補助者の受験者数を増やし、伸び残りのない指導に努める。</p>	<p>■1年生の診療報酬請求事務Ⅱ、2年生の診療報酬請求事務Ⅲ・Ⅳにおいて、進度別クラス編成による授業をおこなっている。</p> <p>■診療報酬請求事務能力認定試験の合格率向上に向け、補習および模擬試験を予定している。</p> <p>■2年後期に必修選択科目を配置し、最後の検定にチャレンジしやすい環境を整えている。</p>	<p>■前期の検定試験、認定試験は中止となったが、1年生においては、医療秘書検定を始めたこと、検定試験、認定試験において例年並みまたは例年を超える合格となった。新学期開始後のオンライン授業により、自宅学習が習慣化したことの原因の一つと考えられる。</p>
			継続	医療 マナメント科	<p>■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指すとともに、資格未得のまま卒業させないよう努力する。また業界ニュースの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。</p>	<p>■前期(6月・7月)の検定試験、認定試験は中止となったが、11月及び12月の1チャンスに備えて、進度別クラス編成等に対応し、対策を強化している。</p> <p>■医師事務作業補助技能認定試験については、前期履修のクラスは9月または11月受験を想定し、オンラインと対面、双方での模擬試験実施等、対策を強化している。オンラインでのデータ環境により、効率よく確実に学習を進められる環境となった。</p>	<p>■11月の医療秘書技能検定試験他、各検定試験は、担当教員の尽力により、前期に十分な対策が取れない状況の中、例年と遜色ない結果を得た。</p> <p>■12月の診療報酬請求事務能力認定試験については、後期授業における対策が功を奏し、合格率は1年生・2年生とも今までの最高値となった。</p> <p>■オンラインでの授業を余儀なくされたにもかかわらず、医師事務作業補助技能認定試験の結果は従前のレベルを維持した。また調剤事務管理士技能認定試験の受験者が例年になく増え、合格者も増加した。</p>
			継続	診療情報管理 専攻科	<p>■診療情報管理士試験合格率を高めるための対策を強化する。また、併せてがん登録業務初級者認定試験、医療情報技術師能力検定試験の取得率増加を目指し、必要な対策を実施する。</p>	<p>■診療情報管理士試験専門領域に関しては、多くの授業をオンラインで実施し、その後専用アプリで復習することにより、繰り返しと繰り返しの学習が構築された。アプリは常時更新され、一層の充実が図られている。</p> <p>■模擬試験実施後は個人毎に成績評価シートを配布し、自らの課題を自覚して学習に取り組めるよう自己管理を促している。</p>	<p>■対策の強化により、がん登録業務初級者認定試験は合格率100%を達成できた。医療情報技術師能力検定試験は今年度は中止となった。</p> <p>■診療情報管理士認定試験対策模試については、今年度は実施回数ははやくも減ったが、模試後の個人別指導を強化し、きめ細やかな面談の実施により学生一人一人を支援することができた。</p>

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方	■中間点検	■年度末点検	
			継続	くすり・調剤事務科	■学生の苦手な部分、わかりにくい部分を補助的に教える科目をつくり、違う角度から説明、演習問題などにより、学生の苦手意識を払しょくして、より理解を深めることで資格・検定の合格率向上に役立てている。	■検定の合格に向けて、いくつか補助的な科目を実施した。新型コロナウイルス感染症の関係で、多くの検定が延期され、後期中の実施になったので、効果の検証は、年度末に実施する。	■新型コロナウイルス感染症拡大で、検定試験が後期に延期されたことにより、一部オンライン授業による課題演習であったが、受験対策が実施できた。結果として、登録販売者試験の2年生の合格率は東京都試験の合格率を大きく上回った。	
			継続	介護福祉科	■介護福祉士国家試験合格のみではなく、レクリエーション介護士2級検定、介護事務管理士2級技能認定試験へのチャレンジを推奨していく。各資格へ合格に導くよう指導していく。	■介護福祉士以外の複数資格取得を目指し取り組んでいる。11月介護事務管理士技能認定試験(任意)を受験予定。	■レクリエーション介護士2級資格は2年生全員取得した。介護事務管理士技能認定試験は、実習や就職活動と重なり受験はしなかった。引き続き、各資格取得に向け指導していく。	
			継続	鍼灸医療科	■少人数学科の特徴を活かし、個々の特性や個々のタイムスケジュールにそった細やかな対応にあたる。	■学生の学習状況や個々のタイムスケジュールに基づき、細やかな指導に当たっている。	■オンライン授業期、対面授業期のいずれに対しても、細やかな指導に当たることができた。特に学習不振の学生については卒業に向けた支援を積極的にオンラインを使用することで、効果的に実施。成果を上げることができた。 ■新カリキュラムでは年間5回実施する模擬試験を総合領域の授業内評価に組み込むことで、トータル的な国家試験対策とした。	
			継続	看護科	■国家試験の合格に向け、教員間の連携を図り取り組んでいく。 ■定期的に担任会議を開催し、1年次からの取り組みで強化、工夫すべきところをまとめ、学科教員会議で専任教員への周知を図る。	■職業実践専門課程の申請を済ませたので、今後は職業実践給付金の基準を満たすべく、目標を教員間で再確認して取り組んでいる。	■オンラインセミナー等の情報共有をして、効果的な内容は学生指導に生かしていた。 ■国家試験問題作成ツールを購入し、教員が指導に生かしている。	
3. 卒業生の社会的評価	○職業実践教育の効果については、様々な機会を捉えて意見聴取やアンケートを行っているが、卒業生や就職先等の評価を確認するための学校全体としての調査方法を引き続き検討し、実践することが望まれる。特に、卒業後3年目くらいまでの動向を継続的に調査する方法を考えてはどうか。	新規・継続	校長	■校友会事務局とも連携し、まず各学科・CSCが中心となって必要なデータ収集の方法を確立し、その結果を教務委員会を中心に分析するようプロセスを検討したい。	■全学的な取り組みについては、今のところ前進が見られないが、卒業生の動向を把握しサポートする手段として、一部の学科では卒業生に向けてのオンラインでのホームカミングデー等が計画されている。	■卒業生に対しても、従来の郵便を利用した紙ベースの調査ではなく、オンラインでの調査の実施を、次年度に向けて計画したい。		
		新規・継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。 ■またGメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を今年度中に進める。	■実習や就職模擬面接会、卒業生キャリア報告会が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に中止や縮小となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っていく。 ■Gメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を年度末にかけ進める。	■実習や就職模擬面接会、卒業生キャリア報告会が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に中止や縮小となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っていく。 ■Gメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を年度末にかけ進める。		
		継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。 ■2015年度生のGメールでの調査を2018年度末に実施したが、今後調査方法の検討やGメールの卒業後の使用方法についても周知していく必要がある。	■実習や就職模擬面接会、卒業生キャリア報告会が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に中止や縮小となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っていく。 ■Gメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を年度末にかけ進める。	■実習や就職模擬面接会、卒業生キャリア報告会が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に中止や縮小となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っていく。 ■Gメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を年度末にかけ進める。		
5. 学生支援	1. 就職等進路	○学生の多くは、学校求人により就職活動を行っていることから、引き続き学生の希望に基づき求人先の確保・開拓に努めてほしい。 ○進路指導協議会を通じて、各学科とキャリアサポートセンターの連携を推進し、社会状況の変化に迅速に対応した学生への就職指導・活動支援を引き続き進めてほしい。 ○キャリアサポートセンター担当職員への対応力は学生の就職指導・活動支援に直接かわかるものであることから、引き続き担当職員のスキルアップを進めてほしい。	継続	CSC	■2019年度、特に医系において大学病院への正職員採用や国立病院、日赤への採用と2019年度の大規模病院への採用が大幅に増えた。2019年度の実績ある病院と連携し、2020年度への採用へ繋げていく。 ■2019年度、進路指導協議会と連携し、インターンシップのあり方の再編を進めてきた。2020年度は、この改編を引き続き進めていく。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に進めている。今年度も引き続き、積極的な参加を促していきたい。	■今年度も実績ある病院と連携し、求人および採用をいただくことができた。 ■今年度も進路指導協議会と連携し、病院実習やインターンシップといった重要な課題について、改編を目指して、具体的にはインターンシップについては従来の11月開始であったものを年明け1月開始可とした。 ■国家資格キャリアコンサルタントについて、継続学習を行っている。	■今年度も実績ある病院と連携し、求人および採用をいただくことができた。 ■今年度も進路指導協議会と連携し、病院実習やインターンシップといった重要な課題について改編を目指した。インターンシップ自体の縮小が課題となっており、インターンシップは開始可能月を11月から1月に遅らせた。 ■国家資格キャリアコンサルタントについて、継続学習を完了させた。	
			2. 中途退学への対応	継続	校長	■学生委員会を中心に、「退学防止調査票」「退学届・学籍異動の記録」を活用した事例研究、担任との退学防止の意見交換会を引き続き実施し、防ぐことができる退学については、早めの対応で極力防ぐ対策を一層強化する。	■前期末時点で退学・除籍者は昨年の同時期を下回っている。	■後期末試験が終了した2月半ばの時点での退学・除籍者は前年を下回っている。
			○入試区分や入学動機の違い、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的に、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。 ○表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫を進めてほしい。 ○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。 ○重点目標として取り上げてきた退学防止への試みが実を結び、退学者が減った。今後もさまざまな面で学生をサポートして、退学者をゼロに近づけるようしていただきたい。	継続	学生委員会	■退学防止調査票を前期2回、後期2回の4回担任に提出してもらい、退学の予兆を早期に察知し、それを学長にフィードバックし、退学抑制策を図る。現在の対象は1年生のみだが、1年次上がった事例は2年生の様子も確認するかどうか検討している。 ■hyper-QUの結果と退学との関係について分析する。	■第1回目の退学防止調査票は新型コロナウイルス感染症の影響で、実施できなかった。第2回は予定どおり実施し、集計して10月の学長会議で報告する予定である。2年次に追跡調査を行うことは、十分に話し合いができておらず、次年度への課題とし、次年度実施できるように今年度中に準備をする。 ■1年生が対象の第1回目のhyper-QUの実施が終了した。	■第1回の退学防止調査票は新型コロナウイルス感染症の影響で、実施できなかった。第2回は予定どおり実施し、集計して10月の学長会議で報告した。第3回は予定通り12月に実施し、2月の学長会議で報告した。その結果を踏まえて2月に1年生の担任を対象に退学防止についての意見交換会を実施する。2年次に追跡調査を行うことは、準備ができていなかったため、次年度以降の課題とする。 ■hyper-QUを医療秘書科と医療マネジメント科の1年生を対象に8月に1回目、11月に2回目の実施をした。
○AO入試による入学予定者への入学前指導プログラムの効果に引き続き期待している。	継続	校長	■昨年度末の3月に実施を予定していた入学前オリエンテーションは、やむなく中止したが、今年度以降も対象となる入学予定者の範囲をさらに拡大し、実施を図りたい。	■現時点で、年明けの3月に入学前オリエンテーションの開催を予定している。	■3月に予定していた、AO入試等による入学予定者を対象とした入学前指導プログラムは、新型コロナウイルスの感染拡大と校舎の空調工事を理由に、やむを得ず中止とした。			
	継続	キャプションライターの養成科	■AO入試を実施していないため該当しない。					
	継続	医療秘書科	■2020年度入学生への入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。2021年度生に対しては、実施の方向で準備を進めていく。	■2020年度入学生に対しては、10月までに担任がすべての学生に対して2回の個人面談(初回は1回)を実施し状況把握に努めている。 ■2021年度入学生に対しては、2019年度の内容をベースに内容のブラッシュアップを検討している。現時点で2020年度を超える人数のAO入学希望者があり、プログラムの内容は慎重に検討する必要があると考えている。	■2021年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。			
	継続	医療マネジメント科	■2020年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。今年度の2021年度生に対しての同プログラムは実施を予定し準備する。	■2020年度入学生に対しては、Hyper-QU等を活用して、また個人面談を頻回に行うこと等により、可能な限り手厚い対応を行っている。 ■2021年度入学生に対しては、2019年度と同様の入学前指導プログラムを実施するべく準備に入っている。	■2021年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。			
継続	診療情報管理専攻科	※2年制卒業生のみが入学するため、入学前指導プログラムの対象者はいない。						

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方	■中間点検	■年度末点検
5. 保護者との連携	○保護者会は、丁寧な説明や意見交換から生まれる安心感が、本校の教育の信頼に直接繋がるものでもあることから、実施あるいは検討と実現に向けた取り組みを引き続き進めてほしい。	継続	くすり・調剤事務科	■入学前指導プログラムの効果は、現時点ではまだ検証できていないので、今後引き続き実施と検証をしていく。	■新型コロナウイルス感染の観点で、今年度の新入生に対する入学前指導プログラムの開催は中止となった。次回開催後に検証していく。	■新型コロナウイルス感染拡大により、本年度も中止となった。来年度の開催後に検証していく。	
		継続	介護福祉科	■2020年度生は中止になったが、入学前指導プログラムは介護への導入に繋がっていると認識している。引き続き導入に向けた内容で継続していく。	■2021年度生入学前プログラム実施に向けた内容を検討中。	■介護についてのイメージが作れるような内容で検討していたが中止となる。引き続き、次回に向けて内容の検討をしていく。	
		継続	鍼灸医療科	※2019年度からの入学生はいないため該当しない。			
		継続	看護科	■新型コロナウイルス感染防止のため2020年度入学生へのプログラムは中止となった。2021年度生に対しては実施の方向で準備を進めていく。	■2021年度入学生に対しては、2019年度生と同様の入学前指導プログラムを実施すべく準備を進めている。	■当プログラムを体験した在校生が中心となり、看護科入学後に役立つ企画を考えているが中止となる。次回に向けて引き続き内容の検討をしていく。	
		継続	広報室	■次年度も引き続き、オープンキャンパスで個別相談等を通して十分な説明を心がけ、ミスマッチのない学校選択に結びつけていく。	■オープンキャンパス参加者には、きめ細かくかつ適切なコミュニケーションを行っている。個別相談では関心のある情報を提供し、申し込みが必要な参加者については広報室内で共有し対応している。	■中間点検時と同様に、個別相談での十分な説明を心がけており、申し込みが必要な参加者についても共有して対応した。	
		継続	キャプショライター養成科	※募集停止によりオープンキャンパスの機会がないため該当しない。 ■現学生とはオープンキャンパス以来の良好な関係の維持に努める。	■在籍者とは面談、声かけ等により良好な関係を維持している。	■オープンキャンパス時の対応が入学後の信頼関係構築に役立っている。	
		継続	医療秘書科	■オープンキャンパスにおいては本校他学科についても理解していただいたうえで、自分の意思で入学を希望していただけるよう、引き続き努める。	■オープンキャンパスにおいて、学科のモットーを提示し説明している。懇談においても入学後の学生生活が具体的にイメージできるように対応を心がけ、ミスマッチの防止に努めている。	■引き続き、募集時および入学前のミスマッチの防止に努めている。	
		継続	医療マナジメント科	■オープンキャンパスでは学科の特色を十分に説明し、理解してもらったうえで入学していただくよう尽力する。	■オープンキャンパスでは学科の特色を十分に説明し、理解してもらったうえで入学していただくようになっている。勉強に対して前向きに取り組む姿勢が見られない場合は、進路の再考を促し、学習態度の改善を促すこともある。	■退学に至る前に当該学生には必要な支援を試みるが、学生の将来を真に考え、新しい道を探る方が適切な場合もある。入学前の対応を強化していく。	
		継続	診療情報管理専攻科	■1年間という短い期間での退学者は元々少ないが、オープンキャンパスでは学科の特色を十分に説明し、理解してもらったうえで入学していただくよう尽力する。	■オープンキャンパスでは学科の特色を十分に説明し、理解してもらったうえで入学していただくようになっている。勉強に対して前向きに取り組む姿勢が見られない場合は、3年間を全うすることは難しいため、進路の再考を促すこともある。	■退学者は発生していない。進学時の面談による意識確認と目標設定、および進学後の頼りの意識がモチベーションの維持に効力を発揮している。	
		継続	くすり・調剤事務科	■オープンキャンパスに参加した学生には、2回以上の参加や授業見学、他の学校、他の学科への見学などを勧めて、ミスマッチがないようアドバイスをしていく。	■今のところ、オープンキャンパスでのアドバイスの効果が出ていてと認識している。	■学科不一致での退学はないと認識している。	
		継続	介護福祉科	■複数回のオープンキャンパスへの参加が退学防止に重要と考える。 ■AO入学者の退学が多いため、入学後はアプローチをし退学防止を図る。	■退学防止に努め、オープンキャンパスでの説明はもとより、個別相談を重要視している。	■オープンキャンパスの複数回参加を促し、希望動機を確認し退学防止に努める。	
		継続	鍼灸医療科	※募集停止のため、該当しない。			
		継続	看護科	■オープンキャンパスの時期、内容については随時「入試委員会看護科部会」にて話し合い、決定事項を学科内において協力を求めた。2021年度生に向けては、限られた条件下で伝えていく必要がある。広報と協力のもと内容の検討を図っていく。	■広報との協力のもと、人数制限や2部制をとって進めている。	■高校の進路指導の先生方との情報共有に努めている。	
		継続	校長	■在校生の保護者会については、各学科の個別の事情を考慮しつつ、オンラインでの実施も視野に入れて実現を図りたい。	■前期においては、保護者会は実施されていない。対面での実施が難しい場合、後期にオンラインでの実施も検討したい。	■実施は計画されたが、新型コロナウイルス感染症禍において保護者の参加希望は少なかった。次年度は、希望者にはオンラインでの実施も検討したい。	
		継続	キャプショライター養成科	■個別対応を基本とし必要に応じて保護者に連携を求める。	■必要に応じて保護者との面談の機会を設け、その後はメールで連絡を取り合っている。	■保護者とは必要に応じて連携し、メール連絡、面談の実施により問題解決を図った。	
継続	医療秘書科	■保護者会開催の要望は一定数あり、実施の必要性を感じている。本年度は、状況に応じてオンラインによる実施も視野に入れている。より多くの保護者と連携を取り信頼を築くとともに、学校生活、進路決定、就職への協力を仰ぎたいと考えている。	■今年度は、集合型の保護者会の開催は中止する。オンラインによる開催が可能かどうか、検討を進めている。	■保護者会は開催を見送った。 ■今後は入学した学生の性質も鑑みながら、開催を検討していく。			
継続	医療マナジメント科	■先行して実施した学科での参加状況を鑑みると、現状では来校していただき一斉実施する形で保護者会の開催は考えていない。また、学校からおよび学科から保護者宛てに何らかの情報発信の必要性を感じているので、他の方法を探りたい。希望者に申込制でのオンライン面談などを検討していく。	■保護者会開催は予定していない。保護者宛ての情報発信方法については、引き続き検討していく。	■保護者会は開催しない。保護者宛ての情報発信方法については、学科内だけで検討するのではなく、学校としてどのような対応が適切な検討が必要である。			
継続	診療情報管理専攻科	■先行して実施した学科での参加状況を鑑みると、現状では来校していただき一斉実施する形で保護者会の開催は考えていない。また、学校からおよび学科から保護者宛てに何らかの情報発信の必要性を感じているので、他の方法を探りたい。希望者に申込制でのオンライン面談などを検討していく。	■保護者会開催は予定していない。保護者宛ての情報発信方法については、引き続き検討していく。	■保護者会は開催しない。保護者宛ての情報発信方法については、学科内だけで検討するのではなく、学校としてどのような対応が適切な検討が必要である。			
継続	くすり・調剤事務科	■学生との個人面談を頻回に行うことで、早期の問題点を解決している。しかし、どうしても保護者との話し合いが必要となった場合は、個別に保護者へ連絡を取り、話し合いをすることで、解決を図っている。今後もこの方法を継続していく。	■問題があるごとに、早期に本人との面談、必要があれば、保護者との電話、本人と一緒に保護者との面談を実施していく。	■問題あるごとに、本人、保護者と連絡を取り合って対応して。			
継続	介護福祉科	■1・2年生合同保護者会、個人面談を継続していく。	■感染予防対策として合同保護者会は中止した。必要時個別面談を適宜行う予定。	■合同保護者会は感染予防の観点から、実施を見合わせた。次年度に向け実現できるよう(オンライン等)検討していく。			
継続	鍼灸医療科	■保護者へは入学時、進級時および三者面談にて学園生活の理解と協力を得ている。 ■3年生の保護者には受験資格要件を明確にし、受験までの流れを文書で示し周知していく。	■成績および出席率については保護者へ送付している。	■成績および出席管理は学生および保護者に対し周知徹底をおこなった。 ■国家試験の受験申請は全員が資格要件をクリアしている。			
継続	看護科	■各担任は保護者との連携を図っていく。社会人学生であっても、保護者の意見を確認し進路の決定に携わっていく。	■現役生は保護者との連携、社会人学生は場合によっては配偶者との調整をはかっている。	■主に電話での連携をはかった。新型コロナウイルス感染症に関する相談も多く、場合によっては学務課の協力も得ながら保護者・配偶者との連携に努めた。			
継続	校長	■今年度は入学式が中止となり、終了後の会場での保護者に対する協力の呼び掛けができなかったが、学校として保護者と連携するシステムについては、学科長会議等の場で、引き続き検討したい。	■新型コロナウイルス感染症の中での本校の教育の状況に関連して、今年度上半期に保護者あての文書メッセージを複数回発信した。	■今年度は新型コロナウイルス感染症の中、文書によるメッセージの郵送やホームページの掲載によって、保護者との情報共有を、むしろ例年よりも積極的に図った。			

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方	中間点検	年度末点検
6. 卒業生・社会人	○成績等の報告についても個人情報保護をはじめとした必要な対策をとった上で、実施に向けた準備を進めることに引き続き期待したい。  ○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。 ○キャリアアップを目指した転職への支援を行っていることを知らない卒業生も多いと思われるので、そのような情報も提供し、随時、学校に相談できるような受け皿を広げてほしい。 ○Gメール等を活用した、(卒業生の状況が把握できるような)ネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。  ○Gメールを活用することによって卒業生の動向を調査しやすいと思うが、年度末1回という、時間が空いた中では回答づらい部分もある。卒業生の声をシラバスに生かすことも大事だと思うので、質問事項を整理した上でもう少しこまめに配信してもよいのではないか。CSCや担任からの配信もあってよい。(2019年度総評)	継続	校長	■昨年度一部の学科で試みられた、高校新卒で入学した学生の成績表を保護者へ郵送し、学生の学習状況を保護者に通知する仕組みについては、全学的に拡大させることも検討したい。	■全学的な実施を、引き続き検討することになっている。	■全学的な実施は引き続き検討中だが、高校新卒で入学した学生については、実施の方向で進めていきたいと考えている。	
		継続	事務局長	■昨年度一部の学科で行われた在学生の保護者に対する成績送付を、全学科が行うのであれば、低リスクでローコストな送付方法を引き続き検討したい。また、単に送付することを目的とするのではなく、家族の協力を得て、退学防止や学習意欲の向上に役立てるなどの工夫も検討したい。	■送付コスト及び送付効果については、引き続き検討したい。	■全学的な実施は引き続き検討中。 ■成績送付は対象学科を絞り込み、追跡可能な方法で送付する。	
		継続	CSC	■卒業生の就(転)職希望者にも積極的に対応している。2020年度は、より積極的に既卒者へのアプローチを行ってきたい。 ■ホームページを通じた卒業生への就職支援は、現在検討中である。 ■Gメールを通じての転職相談・就職先あっせん等は今年度もあった。	■既卒者の就(転)職希望者に今年度も積極的に対応している。 ■ホームページを通じた卒業生への就職支援は、現在検討中である。 ■Gメールを通じての転職相談・就職先あっせん等は今年度もあった。	■既卒者の就(転)職希望者に今年度も積極的に対応している。 ■ホームページを通じた卒業生への就職支援は、現在検討中である。 ■Gメールを通じての転職相談・就職先あっせん等は今年度もあり、実際に内定に至ったものもあった。	
		新規	キャプションライター養成科	■卒業生の状況把握と現学生の就職活動の参考とするため、Gメールによる連絡時期を検討する。	■企業訪問時の対面コミュニケーションにより卒業生の現状を把握している。	■メール・電話連絡、来校、企業訪問により、卒業生の動向をある程度把握している。	
		新規	医療秘書科	■卒業生の動向調査は懇話会事項の一つであり、卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際にはアレンジシートを利用した動向調査をしている。これを継続していくとともに、CSCや校友会との連携を図っていく。	■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス、また病院事務実習の代替授業等、卒業生が来校する際には動向調査を実施している。	■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス、また病院事務実習の代替授業等、卒業生が来校する際には動向調査を実施している。担任からの定期的なGメール配信は難しいのが実情であり、現在のところ考えていない。	
		新規	医療マネジメント科	■現状では、担任教員は在校生への対応を優先せざるを得ず、卒業生への頻回のメール発信は負担が大きくなる。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。	■オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会、実習代替授業のインタビュー等、卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り、情報を収集している。	■卒業生からの情報収集については、来校やメールなどにより連絡があった場合に限り学科内で行っている。卒業生へのGメール配信は現行通り、CSCを中心としてできる範囲で実施していくことが現実的である。学科教員からの定期的な配信は実際には難しく考えていない。	
		新規	診療情報管理専攻科	■現状では、担任教員は在校生への対応を優先せざるを得ず、卒業生への頻回のメール発信は負担が大きくなる。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。	■オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会、実習代替授業等、卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り、情報を収集している。	■卒業生からの情報収集については、来校やメールなどにより連絡があった場合に限り学科内で行っている。卒業生へのGメール配信は現行通り、CSCを中心としてできる範囲で実施していくことが現実的である。学科教員からの定期的な配信は実際には難しく考えていない。	
		新規	くすり・調剤事務科	■卒業年度の学生は、ホームカミングデー開催により、情報を収集する。それ以前の卒業生には、学校のホームページで、学科の活動を逐次掲載しているため、その中に卒業生からの連絡をいつでも受け付けています、といったコメントを継続的に記載して、発信していく。	■卒業年度の学生とのホームカミングデーは、新型コロナウイルス感染の観点から学校内での開催を断念、11月にオンラインで実施する予定。それより以前に卒業した学生が、学校に訪問し、近況の情報交換を行った。	■Zoomによるオンライン同窓会を11月に開催することで卒業生に案内したが、卒業生も忙しくなってきた時期というところもあり、中止となった。来年度も実施を計画している。	
		新規	介護福祉科	■現状は、卒業生への連絡等は教員個々でのメールでのやり取りが主になっているため、Gメールを活用する機会がない。 ■卒業生の訪問は比較的多いと感じている。来校時には、情報収集し必要に応じてシラバスや、授業、実習に反映していく。	■新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、卒業生との交流はできていない。在校生との交流の機会を検討していく。	■卒業生との交流の機会を持っていない。学科イベント、オープンキャンパス等に参加の機会を検討していく。 ■新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、卒業生との就職先にあたり協力を得た。それがきっかけとなり、特別授業を実施する運びとなった。	
		新規	鍼灸医療科	■2020年度、鍼灸医療科同窓会を開催予定である。鍼灸医療科が閉鎖された後も、校友会を通じて業界の動向や情報などの発信の場として、また教員や卒業生間の親睦を深めるため、Gメールを積極的に活用していく。	■2020年度、鍼灸医療科同窓会は新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっている。今後の状況に応じて実施予定である。 ■臨床実習の一環として卒業生の講義を予定している。	■臨床実習内で卒業生による実習実習を実施した。 ■2020年度鍼灸医療科同窓会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっている。今後は校友会を中心に開催を進める予定である。	
		新規	看護科	■国家試験再チャレンジの卒業生への対応、連絡にGメールを活用してフォローしている。今後も学校との連携のツールとして活用していく。	■引き続き活用していく。	■ホームカミングdayはGメールで連絡をしてZoomでの開催となった。職場より参加してくれた卒業生も居たので、次年度は昼休みの時間帯に設定するなど、工夫していく。	
		新規	CSC	■2020年3月卒業生に対し、2020年度4月5月において感染症の影響から、勤務形態が不安定な卒業生も出ているとみられ、Gメールによる調査を行うこととした。今後においても、引き続き調査を行ってきたい。	■2020年3月卒業生に対し、2020年度4月5月において感染症の影響から、勤務形態が不安定な卒業生も出ているとみられ、Gメールによる調査を行った。	■2020年3月卒業生に対し、2020年度4月5月において感染症の影響から、勤務形態が不安定な卒業生も出ているとみられ、Gメールによる調査を行った。	
		継続	校長	■卒業生支援講座については、企画室が校友会と連携して運営統括する仕組みに改められたが、卒業生の学び直しのニーズを把握して社会人(既卒者)対象の学び直し教育につなげるための講座と位置づけ、引き続き、講座企画の具体化と受講者へのサービス向上を図りたい。	■今年度については、前期末の時点で、集合対面での卒業生支援講座の実施は見送ることになっている。	■新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度の卒業生支援講座の実施は中止とした。次年度以降に向けては、オンラインでの開催の可能性についても検討したい。	
		継続	CSC	■2019年度、卒業生支援講座について、CSCにおいても特に参加者の多いレセプト改定の講座のサポートを行った。2020年度は、卒業生支援講座の企画や募集方法についても学校全体で取り組む必要がある。 ■運営の仕方も改善の余地があり、学校全体として見直しを行ってきたい。	■今年度、卒業生支援講座についてGSCとしても協力できることはしていきたい。	■今年度、卒業生支援講座についてGSCとしても協力できることはしていきたい。	
継続	校友会事務局	■卒業生支援講座については、Gmailを使っている卒業生を呼び出し、本年度のように入会案内に合わせた学級同窓会なども運動していくなど、卒業生に協力をいただき、企画から運営までを行える体制づくりを検討している。また、2019年度の卒業生に対して、校友会活動の案内をGmailにて送信し、今後の積極的な参加を呼びかけた。2020年度においても継続していきたい。	■本年度の卒業生支援講座は、介護福祉科、看護科の卒業生に合わせた企画を立てたが、社会状況により実施を見合わせている。また、学園祭の中止により運動企画も行っていない。卒業生との連携については未着手である。	■中間点検時と同じ状況であるが、次年度の卒業生支援講座実施に向け、本年10月に発行予定の校友会報第51号の企画準備を1月より進めている。卒業生との連携については、5月までに概要をまとめる予定である。			
6. 教育環境	1. 施設・設備等	○本校の教育に積極的に生かす必要性からの学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーの目標などの検討が引き続きの課題である。	継続	学務課長	■オンライン授業だけでなく、対面型授業時でも利用できるようWi-Fiの整備を検討する。 ■バリアフリーについては、教職員の意見を聞いた上で優先順位を考慮しながら検討していく。	■授業だけでなく、学生も利用できるWi-Fiの整備を進めている。 ■バリアフリーについては、まだ検討されていない。	■総務課による校内のWi-Fiの整備の検討を進めている。 ■バリアフリーについては、まだ検討されていない。
	2. 学外実習、インターンシップ等	○インターンシップ専攻生のフォロー体制の強化のため、関係者による情報共有と一層の連携が引き続き望まれる。	継続	CSC	■2019年度は各学科と連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制の充実にも努めた。2020年度は、その体制を踏襲していきたい。	■今年度は各学科と連携し、進路指導委員会においてインターンシップの開始時期を従来の11月から年明け1月に変更した。今後もインターンシップ専攻生の負担が少なくなるようなフォロー体制を作っていく。	■今年度は各学科と連携し、進路指導委員会においてインターンシップの開始時期を従来の11月から年明け1月に変更した。今後もインターンシップ専攻生の負担が少なくなるようなフォロー体制を作っていく。



大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方	■中間点検	■年度末点検
			継続	医療秘書科	■インターンシップ専攻生へのフォロー体制はCSCおよび医事系学科で連携している。引き続き、連携体制を継続していく。	■今年度は新型コロナウイルス感染症対策による授業開始の遅れや、前期(6月・7月)検定受験の機会の喪失により、卒業時までには学びの期間を確保するため、インターンシップ専攻を1月開始に変更した。	■1月からインターンシップ専攻が早期勤務を開始した。
			継続	医療マネジメント科	■インターンシップ専攻生へのフォロー体制の仕組みは既に構築されており、情報共有や連携でのサポートにより、その効果は立証されている。今後も継続して実施していく。	■今年度は新型コロナウイルス感染拡大のための休校期間があり、学修スケジュールがひっ迫していることもあり、インターンシップ専攻は1月開始となった。	■1月からインターンシップ専攻として勤務開始した。
	(2)学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、引き続き所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。	継続	学務課長	■インフルエンザや新型コロナウイルスの感染防止対策について、学内ルールを取り決めて実施しながら、教職員の意見を取り入れ、対策を改善していく。 ■マスク着用、手洗い、アルコール消毒について、学生・講師・教職員全員に周知して徹底する。 ■流行情報の把握や保健室職員との連携により、学生や教職員に情報提供を行いながら感染防止を図る。	■学生や教職員に自宅での朝の検温を依頼し、校内でのサーマルカメラでの検温、マスク着用、手指のアルコール消毒を徹底している。 ■保健室だよりを発行し、9月号までは新型コロナウイルス感染症や熱中症の対策を中心に情報を提供した。10月号以降はインフルエンザ予防についての情報を提供する予定である。	■学生や教職員に自宅での朝の検温を依頼し、校内でのサーマルカメラでの検温、マスク着用、手指のアルコール消毒、昼の校内放送による感染防止対策を徹底し、教室で使用した机や椅子、機器等のアルコール消毒の励行を学生にお願いした。 ■保健室だよりを発行し、9月号までは新型コロナウイルス感染症や熱中症の対策を中心に情報を提供した。10月号以降は新型コロナウイルス感染症と併せて、インフルエンザ予防についての情報を提供した。
			7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○高校における専門学校の理解や認識が必ずしも進んでいないのが現状と言われている。高校生の場合、保護者に向けた情報提供も必要である。十分な説明をしないと分かりにくいと思われる学科もあるので、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価など、情報提供をもっと工夫してほしい。	継続	広報室
		○医師事務技術専攻科の募集活動は、医療現場において本校の3年間の教育内容が必要であることを上手く説明することが望まれる。	継続	医療秘書科	※医師事務技術専攻科の募集は停止。		
			継続	医療マネジメント科	※医師事務技術専攻科の募集は停止。		
			継続	広報室	■高校ガイダンスやオープンキャンパスでは医師事務作業補助業務の内容を説明し、高校生の関心を引けていることがうかがえる。医師事務作業技術専攻科は募集停止となるが、新学科の募集に向けて、これからの医療機関で必要とされており、ニーズが高く、求人も増えていることを伝えていく。	■高校ガイダンスでは、医療事務系の分野説明において医師事務の説明もしっかり行っており、仕事のキャリアアップや将来性の高さを併せて認識させている。	■中間点検同様、高校ガイダンスでは医療事務系分野説明において医師事務の説明も併せて行っており、医療機関のニーズや将来性の高さを併せて認識させた。
			継続	広報室	■学科と連携して継続して実施する。	■学科と連携しホームページ等で発信していく。	■学科と連携しホームページ等で発信した。
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■個人情報の扱いやSNSの利用についての注意点は、学生生活ガイドにも掲載し、入学時から指導を行っている。また、保護者への成績送付、広報活動等への協力を得られるように、学生に「個人情報取扱いに関する同意書」の提出を求めている。	■引き続き情報収集に努め、適宜、新しい手法への対応を周知する。また、今年度の新入生より「個人情報取扱いに関する同意書」を取得している。	■個人情報保護、SNSの書き込み等の問題は発生していないが、継続的に情報収集を行う。 ■新型コロナウイルス感染症の陽性者や感染疑い者への配慮が引き続き求められる。
			継続	学生委員会	■1か月に1回以上のペースで学生委員会メールを送信する。内容は保健室・学生相談コーナーの案内、イベントの案内、ボランティア募集について、SNSの利用上の注意について、個人情報の保護に関する注意喚起を予定している。	■新型コロナウイルス感染症の影響で、担任や学務課からメールでの連絡事項が多いため、学生委員会メールを送信しても見えない可能性が高くなることを懸念して、様子を見ていた。10月に第1回目の学生委員会メールを送信した。	■新型コロナウイルス感染症の影響で、担任や学務課からメールでの連絡事項が多いため、学生委員会メールを送信しても見えない可能性が高くなることを懸念して、様子を見ていた。1月に第6回目の学生委員会メールを送信した。
	3. 学校評価	○学校からの報告、説明に対する評価だけでなく、委員からの意見、提案に基づく意見交換を行う時間を増やすことが望まれる。	継続	自己点検委員会	■昨年度に引き続き、意見交換の時間を設置できるように、学校関係者評価委員会の委員長と毎回、事前に検討して取り入れる。	■第1回学校関係者評価委員会においては、意見交換の時間を設置できるよう委員長に相談して、時間を確保した。	■委員長に相談して、意見交換の時間を全ての回で設定してもらった。
			10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	○学業が忙しい中で、ボランティア活動の奨励、支援には難しさはあるが、人材育成の観点からも有意義なものであり、さらに仕掛けを工夫して、引き続き進めてほしい。 ○東京都専修学校各種学校協会のホームページへの情報掲載を引き続き行ってほしい。	継続	学生委員会